

2017 年度 春季海外研修  
アメリカ・フィンドレー大学  
ベーシック・アニマルハンドリングプログラム

農食環境学群 循環農学類 3 年

平松 恵

## 1. フィンドレー大学

フィンドレー大学は、アメリカ合衆国オハイオ州フィンドレーにある私立大学です。教育学部、医療健康学部、薬学部、ビジネス学部、人文社会科学部、自然科学部の6学部で構成されています。



## 2. 平日の過ごし方

午前、午後ともにキャンパスから車で約15分のところにある農場で、午前中は7時から10時まで、午後は12時30分から15時まで実習をしました。

午前中は馬学科の授業でした。厩舎に着くとまず馬学科の学生とペアになって給餌や通路の掃除を行いました。それが終わると一度全員が集まって、先生からの連絡事項などを聞きました。その後新たに別の学生とペアになり、その学生が世話をしている馬の馬房の掃除やブラッシングをしたり、乗馬の準備を手伝ったりしました。



ホルター付ける練習



蹄の手入れ

そしてペアの学生が乗馬する時間になると馬場に移動して、そのベンチで観察していました。8時45分くらいになると酪農学園大学の学生だけ集合し、馬の扱い方や注射の仕方、馬の種類勉強、治療や装蹄の観察、乗馬などの経験をさせてもらいました。私は今まで馬と触れ合ったことがなかったので、何をすればいいのか全くわからない上に馬学科はかなり忙しいので、ペアになった学生はとても早口で最初の1

週間はかなり大変でした。ただ一緒に留学した学生の中で馬にとっても詳しい学生がいたので、分からないことがある度に質問をしていました。その学生がとても丁寧に説明してくれたので、2週目からはなんとなく馬のことが分かるようになり、自分からペアになった馬学科の学生に質問ができるようになりました。また、乗馬に関しては特に貴重な経験となりました。私たちはほとんどが初心者だったので、乗馬といっても横についてもらって歩くだけだと思っていました。しかし実際は違いました。最初は教えてくれているインターンシップ生が馬を引きながら馬に指示を出してくれていましたが、少し慣れてきたところで引くのをやめて私だけの指示で乗馬させてくれました。初めて馬に乗ったのでその高さや振動が怖いと感じましたが、それ以上にとても興奮しました。3週間馬学科で実習させてもらって、毎日馬の世話をするというのはとても大変で体力が必要だなと感じました。ただきちんと世話をすればするほど馬との信頼関係を築くことができるので、やりがいがあるなと思いました。

午後からは12時40分から馬に関する授業、13時40分からは家畜に関する授業に参加しました。午後からの授業はDr.Kernsの研究室に所属している学生(Pre Vetの学生)が全面的に私たちのサポートをしてくれました。馬に関する授業では、注射や採血の練習や蹄の手入れの仕方、サポーターの巻き方、目の洗浄の観察などを経験させてもらいました。家畜に関する授業では、山羊・羊・豚・牛(ホルスタイン)の去勢や除角、豚の尻尾の切断や羊の捕まえ方などを経験させてもらいました。日本では除角以外の処置は見

たことすらなかったので、とても新鮮でした。家畜の保定や捕獲は得意でしたが、薬に関しては一切知識がなかったので説明を理解するのに苦しむ場面も多々ありました。しかしPre Vetの学生が、薬は何を投与してそれにはどのような効果があるのか、どのような手順で進めていくのかを分かるまで丁寧に教えてくれたので、不安になることなく処置することができました。午後からの授業も初めての経験ばかりでとても充実していました。1週目は除角や去勢、尻尾の切断など全てが初めてだったので、要領が掴めずかなり時間がかかりました。しかし回数を経るごとに手順が分かってくるので、スムーズに処置できるようになりました。Pre Vetの学生の説明がすごく丁寧で、ジェスチャーを交えながら教えてくれたのでとても面白く、



羊を捕まえた瞬間

たことすらなかったので、とても新鮮でした。家畜の保定や捕獲は得意でしたが、薬に関しては一切知識がなかったので説明を理解するのに苦しむ場面も多々ありました。しかしPre Vetの学生が、薬は何を投与してそれにはどのような効果があるのか、どのような手順で進めていくのかを分かるまで丁寧に教えてくれたので、不安になることなく処置することができました。午後からの授業も初めての経験ばかりでとても充実していました。1週目は除角や去勢、尻尾の切断など全てが初めてだったので、要領が掴めずかなり時間がかかりました。しかし回数を経るごとに手順が分かってくるので、スムーズに処置できるようになりました。Pre Vetの学生の説明がすごく丁寧で、ジェスチャーを交えながら教えてくれたのでとても面白く、



馬学科最終日



子山羊の捕獲

何も分からない私でもすぐに理解することが出来ました。日本ではここまで家畜に触れる機会がないので、この授業でたくさん家畜に触れることが出来てとても楽しく、もっとたくさん学びたいなと思いました。

### 3.フライデーナイト

Dr.Kerns の研究室では毎週金曜日の夕方から深夜にかけて手術などを行っており、私達も参加させてもらいました。1回目のフライデーナイトは、猫の去勢・避妊手術の補助、子牛の解剖や山羊の治療の観察をしました。この日は、始まった時間が遅かったのと手術する猫の数が多かったのが相まって午前4時までかかりました。2回目のフライデーナイトは馬の全頭採血をしました。事前に授業で練習をしていたので

比較的スムーズに進行し、この日は午前2時には終わりました。手術も採血も日本では絶対に経験することができないので、今回本当に貴重な経験となりました。日本では手術などはできませんが、薬を処方してもらえれば注射はできるのでこの経験を生かせればよいなと思っています。



最終日に Pre Vet の学生と

### 4.休日の過ごし方

休日は美術館やトレド動物園、ホームステイなどをして過ごしました。最初の休日は、アメリカに着いてすぐだったので近くの美術館に連れて行ってもらいました。そこで2018年5月に交換留学で日本にくる学生数名と初めて会いました。緊張と着いたばかりとあって英語で



鳥に餌やり(トレド動物園)

中々コミュニケーションが取れないまま終わってしまいました。次の休日は、トレド動物園に連れて行ってもらいました。前日のフライデーナイトが午前4時までかかったのでかなり寝不足でした。2018年に日本にくる学生や、以前に日本に来た学生など約10名と一緒に動物園に来てくれましたが、疲れすぎてあまり会話に参加できませんでした。最後の休日はホームステイをしました。私のホストファミリーの家はフィンドレー大学から車で約1時間のところにありました。着いてすぐにお昼ご飯を食べて、その後はショッピングに行きました。夕方からは自動搾乳機を導入している農家さんに見学に行き、その後にはメープルシロップを作っ

ている工場に連れて行ってもらいました。ホストファミリーは酪農家なので晩御飯の後は搾乳を手伝わせてもらいました。次の日は朝 9 時からみんな揃って教会にお祈りに行きました。イースター祭までの最後の日曜日だったのでいつもより盛大だとホストファミリーが教えてくれました。その後またショッピングに行き、夕方には哺乳や薬の投与、除角や去勢を経験させてもらいました。すごく充実した 2 日間でしたが、自分の英語力のなさを痛感した 2 日間でもありました。もっと英語で話す力があればより楽しめたのにと感じました。5 月に来る学生とはもっとコミュニケーションを取れるようにこれから英語を勉強する必要があるなと思いました。

## 5.最後に

最初この留学はとても不安でした。まず英語があまり話せないこと、馬の扱い方や、家畜の治療に関して全く知らないこと、学生 6 人で共同生活をする事、全てが初めての事だったので 3 週間乗り切れる自信がありませんでした。今回留学した 6 人の学生の中で英語が流暢に話せる人は残念ながらいませんでした。しかし学類が循環農学類、獣医学類、獣医看護学類とバラバラで、学年もバラバラだったのでそれぞれの分野の知識を出し合ってなんとか授業を理解することが出来ました。誰か 1 人でも流暢に話せる人がいたら、その人に頼ってしまっていたはずです。大変ながらも楽しんで 3 週間を乗り切れたのは、6 人全員で協力し助け合うことが出来たからだと思います。ただ共同生活はやはり大変でした。6 人暮らしで 1 つのトイレしかなく、しかもトイレとシャワー室・洗面台が同じ部屋だったのでかなり不便でした。つらい日もありましたが、それも含めてとてもいい経験ができ、また成長することができたと思います。

最後にお忙しい中留学までの準備や現地でのサポート、そして私達のために様々な企画をしてくれた先生方、学生の皆さんに感謝申し上げます。一生忘れることのないとても貴重な経験となりました。今回経験したことを将来に生かすことが出来れば良いなと思っています。本当にありがとうございました。